

令和5年豊能町議会 第3回
スマートシティ特別委員会

会 議 録

令和5年9月13日（水）

豊 能 町 議 会

令和5年豊能町議会 第3回
スマートシティ特別委員会

年 月 日 令和5年9月13日（水）
場 所 豊能町役場 大会議室
出席委員 6名
秋元美智子 寺脇 直子 池田 忠史
永谷 幸弘 永並 啓 川上 勲

欠席委員 なし

委員外出席 管野英美子（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上浦 登	副 町 長	高木 仁
教 育 長	森田 雅彦	政策監兼住民部長	大西 隆樹
総 務 部 長	入江 太志	総 務 部 理 事	松本真由美
保健福祉部長	小森 進	都 市 建 設 部 長	坂田 朗夫
こども未来部長	仙波英太郎	まちづくり創造課長	田中 久志

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 平田 旬

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. 未入金である令和4年度企業版ふるさと寄附金について
2. その他

午後1時00分 開会

○委員長（秋元美智子君）

皆さんこんにちは。

大分涼しくなってきた、今日なんか本当にしのぎやすいついていうかちょっと寒いかなっていうぐらいなんですけど、大丈夫ですか。クーラー大丈夫ですか。じゃあこのまま始めたいと思います。

ちょっと季節の変わり目の激しいときです。昨日もおとといも激しい雨も降りましたし、何かと体調崩しやすいので。

で、まず、今回のスマートシティについて町にとっては大変な問題ですので、お互い議会も行政のほうも一丸となって、この問題に取り組んでいきたいと思いますので、お願いいたします。

では座らせていただいて、始めたいと思います。

ただいまの出席委員は6名であります。

定足数に達しておりますので、第3回目のスマートシティ特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に当たりまして、上浦町長より御挨拶をお願いいたします。

○町長（上浦 登君）

こんにちは。

本日、スマートシティ特別委員会を開催されるに当たりまして一言御挨拶を申し上げます。

皆様お忙しい中、御参集をいただきまして誠にありがとうございます。

スマートシティにつきましてはですね、御存知いただいておりますように、令和3年度ぐらいから進めてまいっております。

本年度、それから来年度につきましてはですね、KPI等々を進めていかなきゃならないというようなことでございます。

私ども理事者側といたしましては、与え

られた条件の中です、できるだけKPIを進めていながらですね、実証で終わるもの実装させていくもの、豊能町にとってですね、有意義なものにしていきたいと思っておりますので、引き続きの御理解御協力をいただきますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、ありがとうございます。

それではこれより本日の会議を開きます。

本日の協議事項は、御手元に配付とおります。

タブレットの豊能町議会からスマートシティ特別委員会、今日の日付を開けていただいで進めていきたいと思っております。

1. 未入金である令和4年度企業版ふるさと寄附金についてでございます。

これにつきましてですね、前回こちらの委員会として、まず基本的に大阪府のOSPF、つまり大阪スマートシティパートナーズフォーラムですね、これと、それからOZ1っていう会社がそもそもどのような企業だったのかってということと、払ってもらえるよう国と府に対して働きかけを継続していただきたい、以上3点まとめさせていただきました。

国府に対する働きかけは後ほどまた口頭で、お話しいただくとして、まずは、先にタブレットの順番どおりいきます。

大阪スマートシティパートナーズフォーラム、OSPFについて、御説明をお願いしたいと思います。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課の田中です。

それでは資料1ですね、OSPFの概要の資料を御覧いただきたいと思っております。

こちら大阪スマートシティパートナーズ

フォーラムとはということで、これまでの説明とですね、重複する部分ございますけども、改めまして OSPF とはというところで御説明をさせていただきます。

2025 年の大阪関西万博に向けまして、大阪府が大阪モデルのスマートシティの実現に向けた推進体制をつくろうというところで大阪府、府内の 43 市町村、それから企業、大学、シビックテック等連携してですね、設立されたのがこの大阪スマートシティパートナーズフォーラムというコンソーシアムになっております。

こちらはスマートシティを進めていくために、いろんな団体が加入しまして、進めていこうとした推進体制というところになっております。

団体の概要としましては、事務局は大阪府庁の中にあるんですけども、大阪府スマートシティ戦略部戦略推進室戦略地域戦略推進課というところがですね、この OSPF の事務局を担っているというところがございます。2020 年の 8 月、令和 2 年ですけども 2020 年の 8 月 25 日に設立された団体でございます。

今の傘下会員としまして、法人会員に 350 会員ということで、なっております。個人会員も 4 会員、それから賛助会員が 121 会員、特別賛助会員が 3 会員と、こういったですね、会員の方々が加入されているというところがございます。

2 ページ目なんですけども、この OSPF はどんな取組していくんだというところで、スマートシティの実現に向けた取り組みというところで書かせていただいております。

ちょっと読みますと、「少子高齢化や人口減少、ポストコロナへの対応など、大阪府や府内 43 市町村の持つ課題の見える化及び課題解決に向けたソリューションを持つ企業と企業、行政を繋ぐコーディネート・

プロジェクトの推進やテーマに応じたワークショップやセミナーの開催、大阪のスマートシティ推進に関する幅広い情報発信により、大阪府、府内 43 市町村、企業、大学、シビックテック等と連携して“大阪モデル”のスマートシティの実現に向けた取組を推進します。」ということで、下にですね囲みで三つ書いておりますけども、特に豊能町とのかかわりというところでいきますと、1 番左の太字で書いておる枠ですね、こちらになるのかなと思っておりまして、コーディネートプロジェクトの推進ということで、少子高齢化や人口減少、ポストコロナへの対応など市町村の持つ課題の見える化及び課題解決に向けたソリューションを持つ企業と企業、行政を繋ぐコーディネートということで、これまでですね、豊能町も、なかなかそういった人材が不足しているあるいはそういった IT 人材ですね、に長けた人材が不足しているというところで企業と繋いでいただいたり、行政と繋いでいただいたりといったそういったコーディネート役を、OSPF になっていただいていたというところがございます。

簡単ですけども OSPF の概要は以上でございます。

○委員長（秋元美智子君）

何かこれついて、御質問なり、お聞きしたいということがございましたら。

ございませんか。

何か O Z 1 が書いた、どっかに書いた資料によると、豊能町非常に自分の町の課題をよく知っていたと、この 43 市町村の中。

また、多分、協議会そのものが、人口の多いところじゃなくて、全国見回して小さな自治体が多いんでそういうところで、いかにこういった IT 化をしていくかっていうことの、まず、どっかいいモデルがないかなと、取組をしていきたいなっていうと

ここで豊能町に焦点が当たったことと、前町長のほうから直接やっぱり積極的なアプローチがあったと。

この3点挙げていたんですけど、これでほぼ間違いないですか。

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課田中です。

はい。そのとおりでございます。間違ございません。

○委員長（秋元美智子君）

わかりました。

はい、ではほか、次のほうに進んでいきたいと思いますがよろしいでしょうか。

はい、では次に移りましてOZ1の会社概要につきまして、御説明お願いいたします。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課の田中です。

そうしましたら、続きまして資料2のOZ1の概要について、御説明をさせていただきます。

資料2御覧いただきたいと思います。

こちらは会社概要ということで、いわゆる登記ですね、登記を元に、こちらのほうで資料を作成したものでございます。

会社名につきましても株式会社OZ1ということで記載のとおりなんですけども、設立は2019年5月に設立された会社でございます。

所在地は、東京都というところで記載のとおりです。

資本金は90,119,414円ということになっておりまして、役員としまして代表取締役が江川将偉さん、それから取締役としまして石田雄太さんとこの2名が役員でおられると。

従業員数が10名ということで、括弧書き

で業務委託を含むということで業務をお願いしている方も含めまして10名という従業員数となっております。

事業内容につきましてはいわゆるIT関係の事業されておられるんですけども、情報処理サービス業及び情報提供サービスいわゆるソリューションの提供であったりですとか、あと設備関係ですね電気通信設備、コンピューター、そういったその辺の周辺機器の機器及びソフトウェアの企画開発であったりとか、あとインターネットを利用した各種情報提供サービスのいわゆるコンサルティング的な業務であったりとか、その他有価証券の投資あるいは売買並びにその他の投資事業、こういった事業をされると、ところになっております。

会社の沿革につきましては2019年5月に設立されてからこういった状況ですね、いろいろな事業、今回のCSPFCの設立も含めた形での事業をこれまでされてこられたというところになっております。

説明は以上です。

○委員長（秋元美智子君）

資料これだけですか、何かこの際、御質問ありましたら。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

年商はどれだけあるんですか。

寄附金を2億円ほどくださるっておっしゃっていたんですが、儲かっていなかったら寄附もできないと思うんです。川上議員が以前そうおっしゃったんですけれど。

年商幾らですか。

○委員長（秋元美智子君）

年商とかって、わかりますか。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課の田中です。

この会社のいわゆるその決算状況等につ

きましては、ちょっと今すいません、把握をしておりません。

○委員長（秋元美智子君）

こちらのほうもちょっと足りなかった部分があるので、また後日改めてお願いしたいと思いますので、よろしいですか。

私、気になるのはこの従業員数 10 名、業務委託を含むという、従業員に業務委託を含むとちょっと理解できないので、こういうケースもあるのかなあと考えてますけども、今そういうことなんですか。こういうコンピューター関係だから。

これにつきましてはまた後日改めて、それから今後何か疑問が出てきたら、私のお寄せください。改めて調べられるものにつきましてには調べていきたいと思いますので。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

永谷です。

事業内容で大体この会社に見てたら、情報関係とかって書いておりますけども、インターネットなんかですけども。この有価証券の投資及び売買並びにその他の投資事業って書かれてるんですけど、この会社の業務の中でですね、どうなんすか、この比率というか、本来そのインターネットとか仕事をやっておりますけども有価証券の売買されてるということで僕よくわからないんですけど、本業は一体何なのかということなんですけどね。

その点について、もしわかっておればお願いします。

○委員長（秋元美智子君）

いかがですか。

はい、お願いいたします、副町長。

○副町長（高木 仁君）

ホームページ等で書かれてあるのは 1 番に上がっております情報処理サービス業及び情報提供サービス業、2 番目の電気通信

設備云々といったところでございまして、この 4 番目の有価証券の投資及び売買並びにその他の投資事業ということに当たるものについて何をされてるのかってのはちょっと把握しておりません。で、主な業務としてはここの上に書かれてる 1 番、2 番、3 番のところを中心にやってらっしゃる企業だというふうに認識しております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

今までずっと付き合っただけで、まだホームページぐらいしかわからないという状況なんですよ。

これって、言うたらもっと深くですね、どういう会社かというのは、知っておかないと、我々は全くわからないんですけど、お付き合いされている以上はね、どういう会社かというのをもっと深く知っておかないとあかんかなと思うんですけど。

ホームページで載ってますだけじゃ私も聞いたって何もさっぱりわからないんです。そういうところはどうですかね。

何年間付き合っただけで、この会社の実態というか、どういうものなのか、先ほど、従業員数 10 名業務委託ですから、ほとんど業者を使ってやってるという内容かなという認識があるんですけども。

ですから、役員さんの 2 人だけが、実際の従業員で、ほかは全く業者を使ってやってるという会社なのかなという勝手な推測しておりますが、その辺はいかがでしょうか。

○委員長（秋元美智子君）

これ大阪府のほうで声かけて、来ていただいた企業さんですよ。

じゃないんですか。

自ら手を挙げて入れてくださって来た会社ですか。

はい、その辺りも含めてお願いいたします。

はい、田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課の田中です。

もともとこの OSPF が立ち上がる時にですね、大阪府のスーパーアドバイザーというところでこの代表の江川さんが就任されておったと。

ただその、どのような経緯で、アドバイザーにお願いをしたのか就任されたのかそこから辺の経緯については、承知はしておられないんですけども、どちらかのアクションによってなされたということだと思います。

で、この従業員数につきましては 10 名で、業務を含むということで実際の正規の職員さんが何人で業務委託が何人かってちょっと内訳まではわからないんですけども、ただこれまで何回かそういうミーティングなりですね、そういったところでお話をさせてもらってる中では、私の知ってる限りでは 4 名ぐらいは正規のですね、社員さんとはお話をさせていただいたことがありますので、それは正確な数字ではないんですけども私のこれまでのヒアリングといえますか、私の中で 4 名ぐらいとはお話をさせてもらったということがございました。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

どんな事業をするにしてもね、まず最初にね、その事業するその事業の相手、内容は必ず把握しますよね。

この会社、豊能町が付き合い出したのはいつですか。

付き合いした年。

○委員長（秋元美智子君）

はい、お願いいたします。

先ほどの話に戻るかもしれません。

はい、まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課の田中です。

そうですねこの令和 2 年の 8 月に OSPF が立ち上がりました。

その第 1 期のプロジェクトとして、豊能町がモデル地区に選定され、豊能町で令和 3 年度から、2021 年から豊能町でスマートシティを進めていこうということになりましたので、2021 年ということなると思います。

○委員長（秋元美智子君）

川上委員。

○委員（川上 勲君）

設立が 2019 年 5 月やね。それまで、21 年の 2 か年間から 1 年なんぼか何か仕事はしてないのこの会社は。

○委員長（秋元美智子君）

大阪府の協議会のメンバーとして入ってきたということですね。

そこからの知り合いですね。

はい、お願いします。

松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

2019 年にこの会社が設立されてまして、事業等をされていた中でですね、大阪府とのつながりができていってると私は理解しております。

大阪府のほうで、OSPF 大阪スマートシティーパートナーズフォーラムというものを設立されたときに、この会社の江川氏をですね、スーパーアドバイザーということで迎え入れられた、そこからが、大阪府の事業のスタートというふうに理解しております。

○委員長（秋元美智子君）

川上委員。

○委員（川上 勲君）

ということは、OZ1という会社は2019年か20年やね。その前にね、代表取締役の江川何とかいう人は、それまでのね、事業をしたはずや。

その以前の事業、以前5年ぐらいのね、事業の内容を聞いて、売上が何ぼあったかね。言うたら調べるんやね。

そういうことはなさっておられませんの。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。今おっしゃったようなことはこちらではしておらず、スーパーアドバイザーという大阪府の紹介のもとでスタートさせていただいたというものでございます。

○委員長（秋元美智子君）

大阪府のいちメンバーだったってこと。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

ということは、今の状況では大阪府に責任があるわけやね。

そういうふうに理解してもええね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

責任のどの部分にというところが明確にはわからないですけれども、スタートとしてですね、今回豊能町がデジタル田園都市国家構想推進交付金をとってスマートシティについて取り組むってところのスタートとしては、大阪スマートシティパートナーズフォーラムの第1期のプロジェクトに手を挙げてそこを進めてきたというところがございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

いや、どういうところにあるとかないとか違って、実際そのふるさと納税入ってな

いわけやろ。入れる言うたんが。

それに問題があるやん。違うのん。

○委員長（秋元美智子君）

もう一度質問をお願いします。

○委員（川上 勲君）

この人の過去はわからん、大阪府が紹介した言うけどね、この人のやったことはやね、問題あるから今、特別委員会つくつるんやからね。

その問題はやね、ふるさと納税のね、2億近くの金をしてないからね、問題あるわけや。違う。単純にそんな理屈やら抜いてね、やってないというところに問題あるわけや。この人の。

そやから問題あったらその以前にね、この人のやね、細こう言うたら生まれてからこの年までね、どんなことをしてきたか身辺調査ぐらいするのが当たり前や。

今まで何にもしてまへんねやろ、これは。

その辺が問題や、ということですよ。

○委員長（秋元美智子君）

お金ができたら払うとか払わない気はないとかいろいろな相手先は言ってきましたけども、現実的には、江川何某、OZ1という方が本当に信頼できるか会社かどうかは、この期間の間でもきちっと調べていったらいいんじゃないかということをおっしゃったってことですね。

こちらとしても大阪府が呼びかけた、仲間うちってこれ最初の先ほどのOSPFの表を見ると、350の会員の中の1企業ですね。

で、相手はスーパーアドバイザーという大阪府の触れ込みのようです。

ですから、この件に関しまして、今の川上委員の質問、このOZ1、それから江川氏に関しましては、大阪府のほうから、もうちょっと情報を集めていただくように、お願いするってことでよろしいですか。

今の段階では、これ以上のことは出てき

そうもないので。

(発言する者あり)

○委員長 (秋元美智子君)

それも含めて、だからどういう相手だったのかなぜ選んだのかを含めて、今後の取組のためにも必要ですので。

はい、川上委員。

○委員 (川上 勲君)

設立してからね、2年ぐらいでね、2億近いね、ふるさと納税がね、できるかできひんかいうのをね、調べてみたんか。豊能町として。どないです。

○委員長 (秋元美智子君)

ちょっとごめんなさい、今のこのお話、質問。質問はこの後のほうに、町のほうから、なぜふるさと納税払わないのかというふうな質問状出しています。

相手から返事いただいていますので、そのときでもよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○委員長 (秋元美智子君)

はい、ありがとうございます。

今のOZ1の会社概要につきまして、何かほか質問ございましたら。

はい、池田委員。

○委員 (池田忠史君)

すいません、私が調べた資料によりますと、社員数は4名。増資によりまして、今の資本金は2,500万円。株式発行、これ未公開ですから、自社株なるのかもしれませんが138万4,000株。株式の評価額は5億円というような資料もありますけども。

これ利益等は全く情報がないのでわかんないんですけど、かなり、最初から比べると、約3倍の増資をされて企業的に資本金も増えている。

さらに言うと、これ、なぜか6月に本社移転されてますよね。

その辺とか何かちょっと動きが何やかん

や怪しいんですけどその辺の情報というのはどういうふうに使われているのかなと思います。

○委員長 (秋元美智子君)

今の質問に答えられますか。

はい、高木副町長。

○副町長 (高木 仁君)

私どもで把握してるのは、取りあえず謄本をとらせていただきました。

そこで記載のあるものをこの会社概要としてまとめさせていただいているところまでございまして、資本金については9,000万円ある。本社については池田委員おっしゃるように移転されてるというところは把握はできるんですが、なぜそこに会社を移転されたのかとか、そういった情報についてはこちらのほうとしては承知してないというところがございます。

○委員長 (秋元美智子君)

じゃあ、大阪府に会社移転の至る経緯も含めて、聞けるものなら聞いていただきたい。皆さんわからないでしょうし、もし直接お顔を合わせるならば、その場でも聞いていただきたいですし、できる限り情報を集めていただきたい。

いかがですか。

はい、高木副町長。

○副町長 (高木 仁君)

会社が移転したのはなぜかということをお大阪府に聞いてもどうかと思いますので、直接OZ1のほうに照会させていただきたいと思います。

○委員長 (秋元美智子君)

お願いします。この後も、お顔合わせをしたいと思いますので、そのときでも聞いて、うちの町で議会のほうで問題になってることはもう先方も十分御承知かと思いますので、できる限りお聞きして、お答えいただくようお願いいたします。

では続きまして、8月15日付で、町のほうからOZ1のほうに対しましてなぜふるさと納税を寄附していただけない理由ですとかね、その原因、理由といったことを求めていただきました。

これは7月の当委員会のほうで、OZ1に対して文書で求めたらどうかって案を行政のほうで汲んでいただきまして、出していただいたものでして、8月15日に出していただいて、この中にありますけども、8月31日付で、OZ1のほうからちょっと黒く塗ってますんでお名前がわからないんですけど、御返事いただいておりますので、まず資料のほうを開けていただいておりますかしら。

これがですね文書的に1枚、2枚、3枚、4枚、5枚、5枚あります。

今ここですぐ読んで、質問ということはちょっと無理ですんで、これを読む時間をとりたいと思いますがよろしいですか。

休憩をとって、それとも、10分ぐらいで読めますか。

御返事がないようですが。

はい。暫時休憩いたします。

暫時休憩いたしまして、何分ぐらい、15分ぐらい、15分ほどで40分再開したいと思います。

その間に、この辺りが、今までの自分たちが得てる情報とちょっと違うんじゃないかというふうな質問などをまとめていただいて、私が読む中では、ちょっと首をかしげるところも多々ありますので、皆さんのほうで、こういったところはどうかだって、行政、お答えできないものもあるかもしれませんけども、できる限り読んでいただいて、お願いしたいと思います。

40分と言いましたけど45分まで休憩いたします。

お願いいたします。

(休憩 13時27分)

(再開 13時45分)

○委員長 (秋元美智子君)

休憩前に引き続き会議を再開させていただきます。

皆様にはOZ1のほうからいただいた、見解書となっておりますよね回答書ですけども。

これ読んでいただいて、この辺りがわからない、この辺りが今まで聞いてるってことと違うぞというところなどを挙げていただいたら助かります。

非常に、5ページに渡る内容ですので、頭のほうから1ページ、2ページ、3ページ、4ページ、5ページとして、何ページのどこぐらいのところで、御意見いただけたらありがたいんですが、よろしく願いいたします。

行政のほうもこれ読んで、聞いてたのと違うみたいな、多々あるかと思っておりますけど、まずはこちらの委員のほうの意見を先に伺いたいと思いますので、お願いします。

(発言する者あり)

○委員長 (秋元美智子君)

読んでこの中の疑問点あると思いますよ。

(発言する者あり)

○委員長 (秋元美智子君)

いやいや、何か挙げていただいて、そのあとどのように整理していくかをしたいと思います。

ここで話し合っても、回答がね、得られるものはないと思いますし、これもまた別途OZ1のほうに聞いていたのと違うというふうにしてぶつけていくか。

それか直接、今度塩川元町長に実は聞いていたのと、OZ1の返事はこんなに違いがあったというふうに行くか。

どのように行くかまでは決めてませんが、まずはなるほどでこの文書、終わりにするか。

(「委員からこれが事実かどうか聞いた

らどうか」の声あり)

○委員長 (秋元美智子君)

そっちわかりますか、そっちいただける、事実かどうかというのを。誰も答えられるかな、もし答えられるんだったら。

はい、高木副町長。

○副町長 (高木 仁君)

我々この文書をいただきましたのは9月8日でございます。

8月30日付けになっておりますが届きましてたのが9月8日でございます、まだ我々もこの5ページに渡る内容について、細かく詳細に検討はまだできておらない状況でございます。

なので、これはあくまでも業者から届いてる我々から送ったものに対する企業側の見解ということで我々これ把握してまして、内容について、一々これに対してここが違うあれが違う、うちはこう思てるという詳細までちょっと整理ができてない状況でございますので、今委員の皆様から、いろいろ思いをお持ちだと思うんですが、一個一個について、こちらのほうで正確にお答えできるかという、そういう準備ができてない状況でございます。

○委員長 (秋元美智子君)

よろしいですか。

はい、川上委員。

○委員 (川上 勲君)

企業版ふるさと納税のどこ見るとね、4ページこれを見ると、2分の1の寄附をするということは何も書いてないわけや。

その2分の1の寄附があるということは、OZ1の江川さんが言うたんか、塩川さんが言うたんか、どっちかやと思うけどね。

これは豊能町が言うたん、それとも向このほうから言うたん。どっちでっか。

それが一番肝腎な話。

(発言する者あり)

○委員長 (秋元美智子君)

はい、永並委員。

○委員 (永並 啓君)

ももとは6月、昨年の6月の議会で作された、議案のほうは、3分の2の交付金を得る目的の議案書なんです。だから寄附金として上がった金額はその3分の1の金額が出されてた。でも結果的に3分の2の補助金は出ずに2分の1しか出なかった。

2分の1の国からの補助金で2分の1はそっちで持ちなさいよっていう補助金しか出なかった。

そしたら、3分の1と2分の1の差額分をどうするか、豊能町で負担するかっていう話を江川さんと塩川さんがされたっていうところだけなんですよね。

そこのされたところは、誰が確認してるのかが全くわからない。当事者だけ2人だけでしゃべっておられるのか、でも喋ったことを塩川さんはいろんなところで説明はされてるんです。企業からもらうみたいな。

でもその議案には2分の1というのはなっていない。

○委員長 (秋元美智子君)

はい、川上委員。

○委員 (川上 勲君)

いや、そんなややこしいこと知らんけどね、議長がね、3億なんぼのうち約1億9,000万が、そのうちで6,000万入ったから1億3,000万の穴が空いとるということやから半分ちゃうの。

そんな詳しい内容はよう知らんけども。

○委員長 (秋元美智子君)

いずれにしてもですね、豊能町のほうが塩川前町長に出した質問書の回答文が4月の19日付けで返ってきてます。

(「それは誰が決めてんの。1億9,000万なんぼ払う言うたんかこっちが払うて言うたんか、それは決まってまんねん言う

たんか」の声あり。)

○委員長（秋元美智子君）

説明させてください。

塩川前町長自身が、4月19日の回答で、豊能町は令和4年度について国のデジタル田園都市国家構想交付金事業費の2分の1及び企業版ふるさと納税事業費の2分の1を財源として取り組んできましたと、はっきりこれ御自身もおっしゃってんですね。

ですからいろんな議会の中での予算のやりとりは別として、前町長自身はこういうふうな認識で取り組んできました。

（「担当はどういう認識でしてたのか」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

何かわかりますか。

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

当時担当でまちづくり調整監でありましたが、塩川町長のほうから、補正予算を組み、その補正予算分、単費分になるという部分については、企業版ふるさと納税でのOZ1ほうからいただくということの指示のもとで進めてまいりました

○委員長（秋元美智子君）

4年の6月6日、ふるさと寄附金で予算上げてますよね。

よろしいですか。

ほか、この文書の中でちょっとこの辺が理解できないというのは。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

先ほど高木副町長がおっしゃられたように、まだ来てこれの行政側の見解もまだ出てないんですよ。

さらに我々これを見ても、聞いたところで、こちら側がまず整理ついてない段階で、いただいたOZ1から一方的に出された資料の疑問点は至るところにあるんですけど、

それを、まずこの場で聞くんだったらまず最低限、理事者側は全部把握した上でここは違います、ここはこうでした、ここはこう言いましたっていうのは、ある程度確認も必要だろうし、把握した上でじゃないと我々の質問したところで、何も答えられないのかなという感じはしますけど。

その時間を設けてもらってまた近いうちに、この委員会を開催するよっていうような形に。

○委員長（秋元美智子君）

そういう流れは考えられますね。

いかがですか。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

問題はね、半分入るといのがあって入ってないのが問題や。その内容はともかく。

これ以上あの理事者に聞いてもやね、塩川さんが2分の1入ると、寄附金で。

それが入ってないのが問題やからね。これ以上何を言うてもしやあないんちゃう。

○委員長（秋元美智子君）

これなぜ求めたかっていうと、どこに大きな払うと言って払われないのか、相手が。

その原因は一体何なんだろうという要因がどこにあるんだろうということでこの文書求めさせていただいてます。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

グタグタ言うてもわからないかもしれませんけれども3枚の最後、以上という3枚で終わってるんですけど、そのちょっと上のほうに、そこ江川さんからの一方的に書き方ですけども、「豊能町からの「企業版ふるさと納税の寄附に関する見解について」に記載のある企業版ふるさと納税はデジ田予算の財源としての位置づけではなく、豊能町まち・ひと・しごと創生推進事業のうち「避けることのできない未来にそなえる

事業」を寄附の目的としているものです」
って書かれてるんですけど、これについては
どういう、判断ではできると思うんです
よ、この文章だけで言うたら。

これはね、お金の話の中でね、

要するに総務省のお金と、あとふるさと
企業版の寄附で3億9,000何百万という話
聞いた覚えがあるんですけど、これはデジ
田予算ということで聞いた記憶あるんです。

この文章に対してどう、どういう感じで
すかね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

我々も、これ一通りを何回か私読まして
いただいています。で、企業側のあくまでも
見解なので、どうなのかなというところも
当然いろいろ我々、私自身も思っています。

特に今、永谷委員が御指摘いただいでる
このふるさと納税の性格っていうんですか
解釈っていうんですか考え方なんです、
ここが、企業と我々の見解が全然違うなど
いうところでは思っております。

当然我々としたらこれデジ田予算の財源
として位置づけて、その上で議会のほうに、
この事業をお認めいただいでるという前提
がございますので、企業側がこういう、避
けることのできない未来にそなえる事業を
目的とした寄附なので、その金額が幾らに
なるかはこちらの裁量になりますっていう
のはたぶん、ここそういうふうに私自身は
読んでるんですけども、そういう位置づけ
ではなくって、やっぱりこれは1億9,000
何某かのお金については、きっちり入れて
いただくことを前提としているものという
ことであろうというふうに理解しております。

企業側も、そういうことを言いますと寄
附の申出ということで、一旦6,000万円納

めていただいて、さらに当時の前塩川町長
が申出書ということで申し上げて、寄附の
申出者も1億4,000何某かのものが出てま
すんで、おそらくそういう認識、こういう
ふうに見解書いておられますけども、一方
で、おそらくこれ財源として位置づけられ
てるんだろうなということは企業側も、理
解はいただいでるんじゃないかと、いうふ
うには思います。

以上でございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

言い方悪いですけどね、すり替えですわ
これ、はっきり言うて。

企業が勝手にすり替えしてこういう文書
を出して、意見として言ってる。

でもはっきり言ったら、脅しをかけてる
んですよこれね。文書全体見たって、何か
脅し的な文書になってますんで、これって
読んでびっくりしたのが状況です。

これ、かなりもうすり替えやっていますよ、
これ。

そういうことやからこちらも、これから
中身精査されますけれども、ちょっとこれ
をしっかりやっていかないと、そのままず
っと行っちゃってまた交付金を返せとかね、
豊能町の責任どうのこうのいう強いスタ
ンスで出てますけれども、ちょっとその辺
これからねしっかりと文書を読んでいただ
いて、また議会ともね、しっかりすり合
わせたいと思います。

よろしくをお願いします。

○委員長（秋元美智子君）

今、5ページのまた中ほどに御参考の上
から5、6行目に、「当時から豊能町の財
政が厳しいことから、国の補助金とOZ1
の資金投入で取組を企画し」って言う
から、一部ではまた別でこういうふうも言

ってるし、現実的にどういうふうな形で流れていたのかどんなお考えを持っているのか、さっきのね、永谷委員の質問ちょっと、また違ってるなあというふうに私は読めませし、いずれにしても皆さん、このあたりのところとか疑問なる点などございましたらなるべく。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

4 ページ目なんですけれども、企業版ふるさと納税のところ、真ん中から下ずっと事業継続というのが何回か出てくるんですけどね。これ、令和5年度に10億近いお金を、また申請するという話が出ていたと思うんですね。部長さんはみんな知ってると思うんです。私もちょっと、相談を受けたことがあるんですけど、令和4年度も検証できてないのにおかしいということも言ったし、もし上がってきたら私らは反対したいなとか思ってたんでね。

この事業継続をしてもらえないからお金を払わないって推測されるんです。何かその辺りも、確認いただきたいなと思います。

もう一点。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと今、もうちょっと言葉をまとめてください。

○議長（管野英美子君）

4 ページ目の下、事業継続とって令和5年度の予算を取りに行こうとしはったと思うんですね。

私、3月2日の一番最後の会議のときに、これやりませんねっていうことを確認しました。やりませんっていうことを言われた。

それで、腹立ってこういう文書になったんじゃないかこれは後づけですけどね。

そう思います。

○委員長（秋元美智子君）

何か行政のほうに煮詰めてもらいたい先

ほど言った疑問点ありますか。

（発言する者あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい、わかりました。

その上に、企業版ふるさと納税に関しては、事業継続が必要条件となる旨を伝えさせていただいてます、当時の副町長、総務部長同席のもと、って書いてますけど。

（発言する者あり）

○委員長（秋元美智子君）

ただ、こちらのほうからこの点ということとは指摘させていただきたい。

今ここでお答えするしない別にして、このあたり非常に引っかけますってことは、皆さんの中からもいただきたいと思います。

今言いました私の部分、それと議長が言いました継続に関すること。それと、あと永谷委員がおっしゃいました3ページの部分ですね。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

これ委員からも疑問点っていっぱい出てきますけど、それを15分ぐらい読んだだけでは無理ですよ。

理事者側も、高木副町長も何度も見返しておかしいおかしいというのが出てくるんで、それやったら期間設けてこれを読んで、また出してもらってそれもってというような形にしないと、ここ場では本当にもう見れば見るほどこれも出しこれも出してなってでもどれも答えられないしで全部指摘だけで終わるんで、それだったらこれをどっかのいついつまでにちょっと熟読して疑問点を挙げてください、そしてこちら側も理事者側もしっかりと、事実関係を確認してここはどうだここはどうだっていう、理事者側の見解も聞いた上でこの委員会に向かわないといけないかなと思うんですけど。

○委員長（秋元美智子君）

せっかく出てきたことだし、少なくとも15分読んでいただいて、その中でもね、出てくる疑問は多々あると思いましたが、できるだけ拾って行政のほうには置き土産したいと思ってましたけども、もしも、永並委員がおっしゃってるように、別な日に改め…

(発言する者あり)

○委員長(秋元美智子君)

いずれしても、今永並委員の方から提案ありました、これに関しましては、これ以上皆さんのほうから疑問を拾わないで、ひとまずこの場を閉めて、そして行政のほうに見解を出していただいた上で、再度また議会のほうと話し合うという形で閉めさせていただいてよろしいですか。

それとも、もうちょっとこの先どうするかきちっとしなくちゃいけませんので。

今の形はよろしいですかそれで。

はい、永並委員。

○委員(永並 啓君)

ざっと読んで途中で、それで永谷委員がおっしゃられたように脅されてるっていうのは、これでKPIをしなかったら補助金返せみたいなこともしっかり書かれてるんですよ。

ですからそこら辺のすり合わせなりも全部していかないと駄目なんで、本当に金返って来る来ないだけの問題じゃないのかなという感じがするんで、ぜひともね、事実関係をまず整理して、それで多分大きく違うのは、行政の事務の仕方と企業の事務の仕方が全然違うんで、企業は何かもう3年ぐらい継続的にあるからどっかでお金振り込めばいいやろぐらいやけど、行政は単年度なんで、もうその場で議案書が出たら本当ならそこにお金が入ってないけないんですけど、そういう感覚も全く違うんでそこら辺を全部整理した上でこの委員会でご

ちら側からも課題を整理した上で出してぶつけて、豊能町としての見解をまたOZ1側にぶつけて、どう対応していくのか。そして場合によっては、国のほうにも対応をお願いすることになるかと思うんで、そういう形になるのかなと思います。

○委員長(秋元美智子君)

わかりました。

はい、永谷委員。

○委員(永谷幸弘君)

大阪維新公認の大阪府知事、で、後任の豊能町長上浦。これってものすごく引かかるんですよね。すごく。

何でこれ維新の会というのが必要なんかっていうね、後任という。何か引っかかってしょうがないんです。

ちょっと一言だけ申し添えました。

○委員長(秋元美智子君)

じゃあまとめさせていただきます。

今回の回答分に関しましては、行政のほうでもしっかりまとめていただいて、相違点ですとか、今までの流れとちょっと違うんじゃないかということまとめていただき、議会は議会のほうで、皆さんそれぞれまた熟読していただいて、新たな疑問を出していただきたいと。

それでよろしいですか。この件に関しましては。

(「いいです」の声あり)

○委員長(秋元美智子君)

たまたま国と府の働きかけの件が出てましたけども、こちらのほうはもし取り組まれているようでしたらば、御報告をお願いいたします。

はい、高木副町長。

○副町長(高木 仁君)

7月24日にこれ臨時議会がございました。そのときに修正案が可決されたということを受けまして、我々それ以降2回、大阪

府のほうに相談に行ってます。

スマートシティ戦略部のほうに行ってるわけですけども、議会の結果を踏まえて、今後の事業展開どうしていくのかということで、計画しております KPI これをどうさせていたいただいたらいいのかというところが我々としてもちょっとこれ判断つきかねるということで相談させていただいているところでございます。

大阪府のほうからは、KPI が本当に継続できないものなのかどうかというところを改めて、予算がない中でもできるものがあるんじゃないかというようなことも御指摘いただいてまして、今そこの整理をさせていただいてるところでございます。

このお金が入って来ないという問題についても、あわせて大阪府のほうにはこういう事情もあって、議会のほうでお認めいただいてないというところはお伝えさせていただいてまして、それは国のほうにも伝わっているという状況でございます。

なのでこの KPI の件につきましてはまだ、最終、国、府の判断が出てないというところでございます、ここは継続して、大阪府、国に御相談しながら対応させていただきたいというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

大変かと思いますがお願いします。

ほか、今の報告いただいて、何か質問何かございましたら。

よろしいですか。

（「いいです」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

じゃあ、先ほど出ました最初のこちらからのお願いですね、O Z 1 という会社はそもそもどのような会社かっていうことも少し大阪府のほうからも情報を集めていただき、ほかのいろんな手段、方法を使って、もうちょっと膨らませていただきたいとい

うことと、それからこの回答文に関しましては、行政側の見解をまとめていただきたいということで、お願いして、今日の会議は閉めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい。これをもちまして、当委員会は閉会させていただきますので、よろしく願います。

どうも長時間に渡りましてありがとうございました。

午後 2 時 9 分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 スマートシティ特別委員会

委員長